

下水道工事写真撮影に関する特記仕様書

下水道工事における工事写真は、以下の方法で撮影するものとする。

1. 着工前写真

施工測点が明確にわかるよう付近の風景、構造物等を画面に入れ、測点毎にポールを、在来構造物の寸法を現わす場合にはポール、箱尺等を画面に入れて撮影すること。

着工前写真には破線（污水管は赤色、雨水管は青色）にて流向を表示し、測点を記入すること。

2. 施工中写真

(1) 設計図と出来形を対比した鮮明な写真とすること。各測点又は構造物の設置箇所毎に工程に従い丁張、その他著名な目標物を背景に標示板(黒板に工事名、測点、工種、構造物の略図等を記入したもの)を置き、測定尺により寸法を明示すること。

(測定尺：箱尺、巻尺(スチール、布)、折尺、ノギス、リボンテープ等)

(2) 水中又は地下埋設部分その他完成後、確認が困難なものについては特に慎重に撮影し、状況に応じてフラッシュを使用するなどして鮮明な画面とすること。

(例：管布設、鉄筋組立)

(3) 作業及び仮設工の状況は必ず撮影すること。

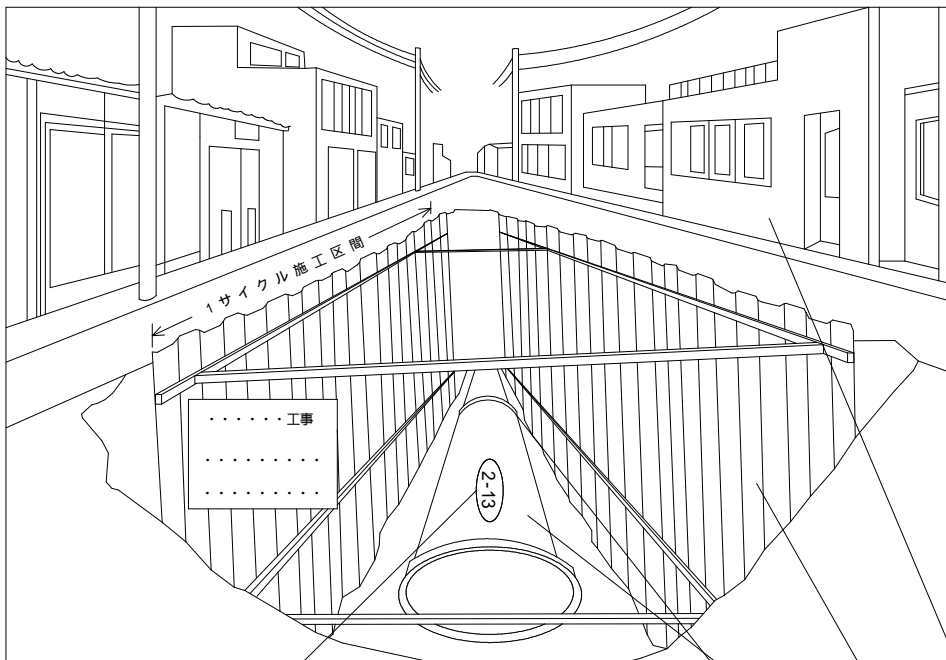
(例：バイブレーター、ランマー、ショベル、推進機、立坑構築機等による作業状況、矢板建込、水替え等)

(4) コンクリートのスランプ試験やテストピースを採取する場合には、必ず工事現場を背景に撮影すること。

3. 完成写真

着工前写真を撮影した位置と同じ位置で撮影し、着工前と完成後の状況を比較できるものとする。

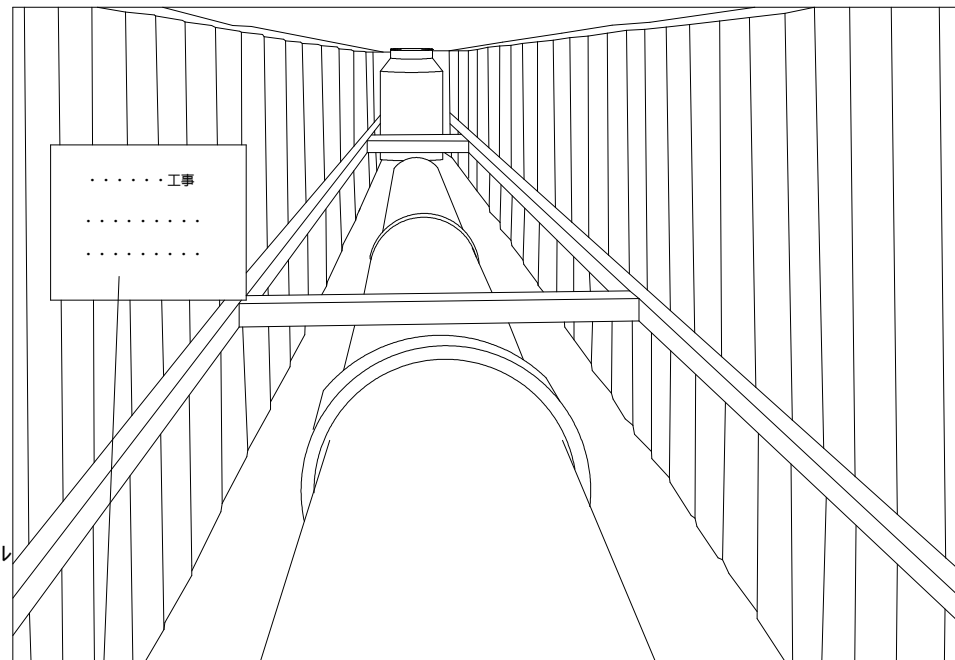
完成写真には実線（污水管は赤色、雨水管は青色）にて流向を表示し、測点・管径・路線延長・勾配を記入すること。



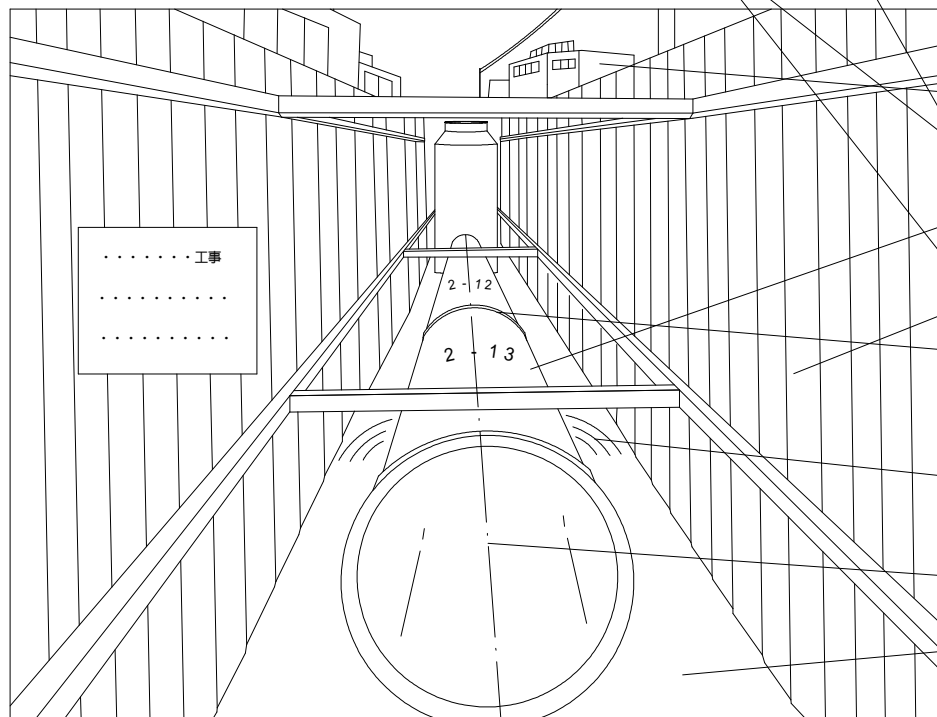
(赤ペンキ)

マンホール測点番号を記入の上撮影のこと
マンホール接合部は必ずアップにて撮ること

(マンホールの前後の中心と取付部)



- ・ 黒板以外はどの場所か確認しがたい
↑ 2枚撮りとして、背景をいれれば確認しやすい



- ・ 背景が入っている
撮影位置がわかる
- ・ 管の布設位置がわかる
No.2から12,13本目である
- ・ 土留工の場所がわかる
- ・ 管の接続が鮮明である
可とう性接合剤の使用
状況がわかる
- ・ 胴締で管の側面を固定
する
- ・ 通りの確認ができる
- ・ 基礎の確認ができる

